

東京日々新聞

千九号



上総の國市原郡矢田村に平田留次郎といふ奴年
四拾六餘歳の陰瘻の症を陽物の勃起を以て
死する女を犯すとき立あひ病ひが全快となり
在舞村の何某とららの娘を十七才にて黄泉行
まごの語と逐二聞て墓場に至り埋り玉と坂撥
裂て刃女無言の死散と強好り埋め
以棄かきあるが明治八年五月二日事
發露して縛せしを裁判所
拘りし例しゆ
曲者水

轉々堂
略記

海辺彫味
人形屋

